

●ユニセフ、半世紀ぶりの日本への支援を開始

2011年3月11日14時46分、M9.0、震度7という記録史上初めての巨大地震、この度の大震災で被災されたみなさまに心からお見舞い申し上げます。

この大震災に対し、ユニセフ(国連児童基金)は日本支援を表明しました。日本の子どもたちへの支援は、第2次世界大戦直後の昭和24年から昭和39年まで15年間続いた「粉ミルク(脱脂粉乳)」などの支援や、昭和34年の伊勢湾台風被災者への支援以来となります。

ユニセフ本部はソマリアとアフガニスタンで活動している國井修医師を派遣、日本ユニセフ協会菊川職員とともに[3月21日]、協力団体である岩手県生協連・いわて生協・岩手県学校生協と協議し、具体的な物資調達・物流手段などを確保し支援活動を確認しました。 ▼下の写真はうちあわせの様子▼



●第一次支援物資 ユニセフから届く

[3月23日]、ユニセフから男児・女児用下着3万枚がいわて生協に到着、[24日]に県内6ヶ所(釜石市・大船渡市・陸前高田市・宮古市・山田町・大槌町)の物資支援センターに届けられ、避難所に渡されました。今後子ども用下着・靴・長靴・お尻ふきなど支援物資が到着し、現地に届けられます。



▲3月24日、物資支援センターに向けて出発するいわて生協と応援の秋田北生協の皆さん

●ユニセフ 被災地に...

ユニセフ本部は、ユニセフベトナム事務所安田直史医師を岩手県担当として派遣、[3月27日]釜石・大槌を日本ユニセフ協会菊川職員・岩手県支部の藤原事務局長たちが視察。被災後の火災で黒こげになった残がいのあまりの悲惨さに胸が締めつけられる思いでした。避難場所にもなっている大槌町災害対策本部(中央公民館)と避難所となっている安渡小学校を訪問しました。



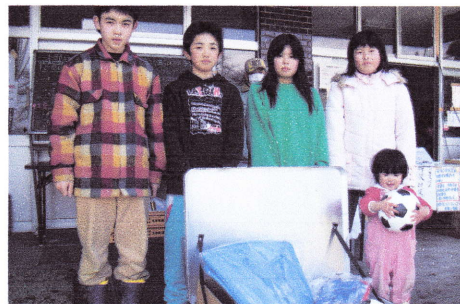
▲雪が舞う寒い朝、タオルをかむった女の子(大槌中央公民館避難所)



▲安渡小学校避難所には約50人の子どもたちがいます(受付所)



▲ユニセフ支援のレクリエーションキットに
安田医師と一緒に空気を入れる



▲大槌中学校1年生の4人、「学校はいつから
かわからないけど、先生が宿題持ってくるそ
うです」と黒沢竜一郎君。サッカーボールを手
にニコニコする2歳の女の子

- 3月28日、安田医師とアフガニスタン事務所から派遣された竹友有二物流担当は、岩手県教育委員会・保健関係・物流関係と今後の支援について協議しました。また、岩手県教職員組合の砂金良昭書記長・鷹觜孝彦書記次長と新学期に向けた学用品のニーズなどについて協議しました。
- コペンハーゲンのユニセフ物資センターから「箱の中の学校」「箱の中の幼稚園」「レクリエーション・キット」などが岩手にも届いています。子どもたちの「こころのケア」のために、ボランティアのみなさんと一緒に被災地のお子さんたちに届けていきます。



～箱の中の幼稚園～

<黒柳徹子さんからのメッセージ>

今回の地震や津波により被災された皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

どんなにか大変なご苦労をされているかと思います。そのような中、大人の皆さまにお願いがあります。大人でさえ耐えがたい状況の下で、被害を体験したり見聞きたりした子どもたちは今、非常に大きなストレスを抱えています。たとえ平気であるかのように振る舞っていても、混乱し、苦しんでいるのです。周りにいる子どもたちを抱きしめて、優しく声をかけてあげてください。できるだけ子どもたちの話し相手、遊び相手になり、早く日常の感覚を取り戻せるように、手助けをしてあげて下さい。

ユニセフ親善大使 黒柳徹子

●東日本大震災緊急募金が取り組まれています

東日本大震災緊急募金口座

郵便局 (ゆうちょ銀行)

振替口座：00160-2-372895

口座名義：財団法人日本ユニセフ協会

※通信欄に「東日本 K1 - 030 岩手県」と明記願います。

※手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ユニセフは物品での支援は受け付けておりませんのでご了承ください。

<問い合わせ先>

日本ユニセフ協会 岩手県支部 電話:019-687-4460